

中曾根の「二期強行」発言弾劾

88集会の成功にむけて
シリーズ 1



83. 7. 25
No. 1399

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二〇七

7.31反戦・三里塚大集会

8.8パイプライン供用開始粉砕集会の大成功をかちとろう

すべての組合員のみなさん、政府・空港公団による8・8ジェット燃料パイプライン全面供用開始情勢は、「二期着工」の切迫を意味している。

六月二一日、中曾根首相は、千葉において現職首相として異例の「二期強行発言」を行った。これは、中曾根自身が「二期強行」を突破口に「戦後の総決算」をかけて軍事大国化・改憲へつき進むことを宣言するものであり、三里塚反対同盟・闘う労働者・人民に対する重大な挑戦である。従って、われわれにとって三里塚二期決戦に勝利することが労働者・人民の未来を決するといつても過言ではない。

労働千葉は、三里塚反対同盟の十八年間の闘いに、労農連帯をかけて、共に闘いぬぎ、この間のあらゆる反動と組織破壊攻撃を粉砕して勝利をかちとってきた。支配階級・中曾根は、不屈・非妥協・実力をもって闘いぬぐ、反対同盟・労働千葉と、闘うすべての労働者・人民を圧殺することなしに軍事大国化・改憲・戦争への道を進み得ず三里塚闘争解体にむけて、全体重をかけた攻撃にうってでてきている。

8・8パイプライン供用開始という今日の情勢は、否応なしに、二期着工をめぐって切迫化してきており、いまこそ一三〇〇組合員の総力で決起しなければならない。そのために、以下日刊紙上でシリーズをもって提起することとする。

軍事大国化・改憲にむけた突破口としての「二期着工」

中曾根首相の「二期推進」の発言と、現段階における凶暴化は、三里塚闘争が敵にとつても最大の弱点であることあらわれでもある。

それは、三里塚闘争が、反対同盟十八年の闘いを軸に、わが労働千葉をはじめとする全人民の結集と共闘・反戦平和の砦として、軍事大国化・改憲・侵略戦争をはばんでいるからだといえる。だからこそ、三里塚を闘う陣型に凶暴な姿をむきだしにして、弾圧を加えてきているのである。

三里塚を闘っているそのことのみで、6・7ゲリラを口実にして、七月七日以降わが労働千葉と三里塚反対同盟をはじめとし、全国で約二〇〇カ所にもおよぶ不当搜索を強行し、加えて6・12反動判決、7・21横堀戦への反動判決を下し、そればかりか、国鉄をめぐってこの間の入浴、反合をたたかう国労の仲間に対する鹿児島・門司・大阪・東京での大量不当処分攻撃を加えてきていることなか、一切があらわれている。

戦争か平和かをかけた歴史的闘い

中曾根の「二期強行発言」こそ、権力の直接的な弾圧はもとより、「一坪再共有化」を路線とす

る脱党派をも利用した攻撃、「成田用水」の強行着工等によって三里塚反対同盟を根こそぎ解体すると同時に、日本労働運動における戦闘的国鉄労働運動への、政府・権力・当局一体となった、労働「本部」革マルを先兵にした根こそぎの破壊をすることなしに、支配の維持ができないという絶望的危機を、労働者・人民への犠牲のうえに、危機突破をはかるという、むきだしの凶暴化を示すものである。われわれは、国内支配体制を再構築し、朝鮮・アジアへの侵略戦争に突き進まんとする日帝・中曾根に加担するのか、それとも反戦・平和のたたかいを守りぬき、労働者・人民の生活と権利を守りぬくのかをかけた闘いとして歴史的決戦に突入したといえる。

その最大の攻防が8・8闘争に凝縮されているのである。これらの危機故の凶暴化した反動中曾根を頂点とする全反動と対決し、とりわけ、その先兵となつた全人民の敵、労働「本部」革マルを粉砕・打倒するために、8・8闘争に総決起しよう。

首相、参院選応援で来葉

成田二期でも積極姿勢（朝日）



【参院選の応援で千葉入りし、記者会見する中曾根首相】